

一企画一 インタビューコーナー

第3回 NPO法人キッズバレイ代表理事 松平博政 さんに聞く

インタビューコーナーでは、「男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな立場で活躍している人」をシリーズで紹介しています。今回は、男性のワーク・ライフ・バランスの実践について、NPO法人キッズバレイ代表理事の松平博政さんにお話をお聞きしました。

「桐生市イクメンプロジェクト推進チーム」について

平成23年度に、公募による市民7名と市職員3名で発足しました。メンバーは全員30～40代の子育てまっただ中の男性。男性が子育てに参加しやすい環境づくりを目指し、月1回の定例会議のほか、イクメン周知のための講演会の開催、父親の子育て参加に関する意識調査、男性の育休取得促進などを行うほか、昨年11月には提言書を桐生市長に答申しました。

「NPO法人キッズバレイ」を設立しました

提言書の答申でイクメンプロジェクトの活動は一区切りついたわけですが、提言の内容を実現に近づけるにはどうしたらいいのかをメンバーで話し合い、民間団体「キッズバレイ」を立ち上げ、11月にはNPO法人化することができました。「キッズバレイ」の構想は、子どもたちを中心に周りにいる大人たちで地域を活性化し、子育て世代へ『仕事の支援』と『暮らしの支援』をすることを事業

の柱としています。子育て世代にとって、仕事と暮らしは切っても切り離せないものだからです。

『仕事の支援』では、起業支援を考えています。仕事がないなら作ってしまおうという発想です。桐生に戻りたい人は案外多いという話を聞いているので、桐生での仕事を作るサポートができればと思っています。

『暮らしの支援』では、「きりゅうアフタースクール」を考えています。地域にある人材資源と子どもの教育を結びつけて、桐生は子育てや教育が充実している町と言われるようにするのが目標です。

男性の仕事と家庭との両立について

家庭をよく見るようになって気付いたことですが、家事や子育てでは、食事づくりや洗濯などを同時にこなしながら、子どもにも目配りするということがごく当たり前に行われています。これは、マネジメント、マルチタスク、スケジュール管理の力であり、仕事で生かせるものです。



仕事や家庭、地域活動、趣味、自己啓発などは、全てその人が生きていく上で必要なもので、順位付けすることではないと思います。それらを人生という一つのお皿に、どう彩りよく載せていくかが大切なのではないでしょうか。

パパ&プレパパに一言

仕事や家庭のバランスは人それぞれですから、自分で見つけていくしかないのかなと思っています。私にとっては子育てが人生における一番の仕事という位置付けですが、他人がいくらそうだと言っても、真底そう思わないと続かない。決めるのは自分です。長く楽しく続けるためにも、自分で気付いて主体的に動いてほしいです。

モチパパ大作戦!! 父と子のバルーンアート教室



参加者募集

ぐんま男女共同参画センターでは、父親の子育て支援のためバルーンアート教室とミニ講演を開催します!
イクメンのコツを学び 家族にモテる パパになろう!!



【日時】平成26年1月19日(日) 午前10:00～正午

【場所】ぐんま男女共同参画センター

【講師】吉田大樹さん(NPO法人ファザーリング・ジャパン代表) ほか

【対象】3歳～未就学児のお子さんとパパ(または男性保護者)

【費用】無料

【定員】20組 **抽選** (応募締切りは平成26年1月7日(火))

・応募方法: 電話、ファクス、メールにより、参加者の氏名、年齢、住所、電話番号を当センターまでお知らせください。

事業報告 1

女子高校生及び保護者を対象とした「理工系へ行こう!」を開催

このセミナーは、女性の進出が少ない理工系分野の魅力を伝えようと県内企業、群馬大学理工学部及び県教育委員会の協力を得て実施しているものです。

今回は、県立前橋女子高校の生徒及び保護者を対象に事業所訪問、講演会、実験を行いました。

10/4 (金)

(株)IHエアロスペース富岡事業所を訪問。企業見学と女性技術者との交流を行った。(生徒23人が参加)



10/5 (土)

保護者向け講演会「理工女子の活躍最前線」
講師:板橋英之さん(群馬大学理工学部教授)
(保護者85人が参加)



10/12 (土)

講義と実験「渡良瀬の銅を調べよう!」
講師:板橋英之さん(群馬大学理工学部教授)
(生徒22人が参加)



事業報告 2

みなかみ町と共催で「杉尾秀哉氏講演会」を開催!
【11/24(日) みなかみ町カルチャーセンター】

ぐんま男女共同参画センターでは、より多くの県民の方に男女共同参画について考えていただくきっかけになればと、県内の町村と共催で講演会を開催しています。

今回は、みなかみ町と共催で、杉尾秀哉さん(TBSテレビ報道局 解説・専門記者室長)をお迎えし、「男女共同参画社会実現の先に～報道の現場から見えてくるもの」と題してお話いただきました。

杉尾さんは、冒頭、「男女共同参画はとにかく女性の社会進出の話に矮小化されがちですが、これから人口減少でどんどん大変になっていく日本の社会は、全員野球で乗り切っていくしかありません。そこに必要なのが男女共同参画なのです。」と切り出しました。

続いて、「これまでの男性型モデル社会は行き詰まりを見せています。給料の減少で妻子を養えないばかりか、男性に対して過度の重責や長時間労働などの負担を与え、多くの精神疾患や自殺者を生み出しているのです。」とし、「閉塞感のある社会を変える鍵になるのが男女共同参画であり、これは女性の社会進出の課題だけでなく、男性の『仕

事と生活の調和』などあらゆる人の課題です。これからは男性も女性も、仕事・家庭・地域活動などの色々な物語の中で生きることが大切で、これが心の閉塞感を打ち破っていくのではないのでしょうか。」と話しました。

最後に、「私は、これまでの単線型の生き方から複線型の生き方に変えようと思っています。これまでの報道の現場での経験から導き出した私なりの結論です。個人個人が自分なりの男女共同参画を実現させていけば、



その先にはきっと幸せが待っていると。思います。また、そういう社会をつくらなければならないと思っています。」と締めくくりました。

講演会では、普段聞くことのできないテレビの裏話などもあり、参加者からは、「杉尾さんの熱弁に驚いた」「聞きやすくおもしろかった」「今社会で起きていることが詳しくわかった」「これからの日本にとって、なぜ男女共同参画の実現が必要なのか理解できた」などの感想が寄せられました。

(参加者132人)

